

令和6年度 狭野小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校の経営ビジョン:人権教育を基盤とした、一人一人のよさや可能性を引き出す教育活動を展開し、これからの時代を生き抜くために必要な力を身に付けた子どもを育成するとともに、家庭・地域との連携・協働による活動を通して、郷土を愛する心を育み、活気あふれる学校を目指す。【4つの力】○人を大切にする力 ○自分の考えをもつ力 ○自分を表現する力 ○チャレンジする力

評価基準 4～期待以上（90％以上） 3～ほぼ期待通り（70～90％） 2～やや期待を下回る（50～70％） 1～改善を要する（50％以下）

	評価項目	評価指標	具体的な数値目標	方策・手立てについての自己評価	評定		学校関係者評価コメント
					自己	他校	
主体的な学びと確かな学力	1 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的に学習に取り組む児童を育成する。	○ 学校評価アンケートにおいて、児童用「主体的に学習に取り組む」項目 80％以上、教師用「授業改善」項目教師用 80％以上を目指す。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業改善に取り組み、児童用アンケート「自分から進んで学習に取り組んでいる」96.4％、教師用アンケート「個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業改善に取り組んでいる」100％であった。	4	4	○ 児童アンケート、教師用アンケートともに数値が目標に対して高い値になっており、積極的に取り組んでいる姿が伺える。引き続き充実した学びとなるよう取り組んでほしい。 ○ 読書から得られるものは多岐にわたります。貸出冊数が目標に達するように読書の楽しさを感じてほしいです。 ○ 児童と教師が一体になって授業に取り組み充実した授業が展開されていると感じた。 ○ 読書目標に関しては昨年目標より若干平均が下がっていると感じた。
	2 「分かる・できる」を実感できる授業改善	○ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを通して、「分かる・できる」を実感できる学習指導に努める。	○ 学校評価アンケートの児童用アンケートにおいて、授業が「分かる・できる」と答える児童 90％以上を目指す。	○ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりや少人数指導体制のよさを生かした個に応じた指導や適切な支援を行ったことにより「授業が分かる・できる」と答えた児童が 96.4％であった。 ○ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりについては、さらに研修を深めて全般的な実践を推進する必要がある。	4		
	3 読書活動の推進	○ 個人の読書目標を設定させ、発達段階に応じた読書をさせることで貸出冊数平均 100冊以上を目指す。	○ 学校評価アンケートの児童用アンケートにおいて、月平均 10 冊以上本を借りるように図書館の活用を推進する。	○ 個人の読書目標を設定したり、学校図書館のイベントを開催したりして、読書活動を推進したことにより 2 月までの一人平均貸出冊数が 100冊であった。 ○ ビブリオバトルを年 2 回行い、読書への啓発を行うとともに、読書への興味・関心を高めるとともに、読解力や表現力の向上につながった。	3		
互いを認めよい行動を実行する力	1 称賛と承認によるポジティブな行動支援	○ スクールワイド PBS に取り組み、規範意識の高揚や自己肯定感を育てる。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「学校が楽しい」、「きまりを守る」、「自己肯定感」の項目 90％以上を目指す。	○ 「称賛と承認」によるポジティブな行動支援を行ったことにより、アンケートで「学校が楽しい」 96.4％、「自分のことが好き」 71.4％、「廊下や階段は静かに歩いている」 82.1％であった。 ○ スクールワイド PBS の取組で「プラスワンそうじ」のキャンペーンを行ったことで、主体的に掃除に取り組む姿が見られるようになった。	3	3.5	○ 「自分のことが好き」と自信をもって言える自分を大切にする、ひいては周囲の人も大切にできることが楽しい毎日につながると思います。もっと自分を好きになってほしい。 ○ 学年を超えての優しさやルール指導など小規模校ならではのよさを十分味わってほしい。 ○ 学校が楽しい評価は素晴らしい人格の持ち主の教師と教育方針がよいからだと思う。 ○ いじめは絶対目標「0」を目指し相手の気持ちを思う児童育成を目指してほしい。
	2 いじめ、不登校の未然防止	○ 教育相談とスマイル委員会の充実を図り、いじめ不登校の未然防止を図る。	○ いじめの解消 100％、新規不登校児童 0 ゼロを目指す。	○ 教育相談の充実とスマイル委員会の充実を図ったことにより、12 月までのいじめの認知件数は 4 件で、現在は継続していない。新規不登校、不登校傾向児童は 0 ゼロであった。	4		
	3 主体的に考え行動できる児童の育成	○ 学校行事や体験活動、委員会活動や係活動等において児童が主体的に行動する場面を多く設定する。	○ 学校行事や体験活動、委員会活動に「進んで参加している」と答える児童 90％以上を目指す。	○ 学校行事や体験活動、委員会活動や係活動等において、児童が主体的に活動する場面を多く設定し、「進んで参加する」児童の割合は 89.3％であった。	3		
体力の向上と健康安全の推進	1 基礎体力の向上	○ 体力向上プランに基づいた実践及び個別の指導により、体力アップを目指す。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「体力が付いてきている」児童の割合 80％以上を目指す。	○ 体力向上プランに基づいた実践及び個別の指導により「体力が付いてきている」児童の割合は 89.3％であった。	3	4	○ 酷暑や厳冬など暑さや寒さにも負けない強い身体づくりのために体力アップの活動が大事です。体力面で個人差があるのは当然ですが、個々が自分の身体と向き合って積極的に取り組むようになるとよいですね。 ○ 給食を残さず食べる量の調整を行っているのに残菜があるのは給食への感謝不足だと思う。
	2 健康・安全の推進	○ 保健教育、安全教育の充実を図る。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「健康・安全に気を付けて生活している」児童 90％以上を目指す。	○ 毎日の健康観察カードや検診結果等から、児童一人一人の生活状況を把握した保健指導を行うとともに、メディアコントロールチャレンジ週間等を設け、自分自身で健康について考え、コントロールしていく力を養ったことで、「健康・安全に気を付けて生活している」児童の割合が 89.3％であった。	4		
	3 食育の充実	○ 給食指導の充実と弁当の日の実施により、食育の充実を図る。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、「自分の給食を残さずに食べる」児童 80％以上を目指す。	○ 自分で給食を残さずに食べられる量の調整を行うとともに、年 2 回の弁当の日（11 月と 3 月の遠足）と、給食感謝週間を充実させ、「給食を残さず食べる」児童の割合は 82.1％であった。	3		
家庭・地域との連携・協働	1 家庭学習の充実と支援	○ 宿題や読み声の見届けについての啓発を行う。	○ 学校評価アンケートで「家庭学習の見届けを行っている」家庭の割合 80％以上を目指す。	○ 家庭学習の取組について、「狭野小家庭学習の進め方」を配付したり、見届けのお願いをしたりしてきた。家庭学習の取組に個人差があり、宿題の選択や個別対応など工夫してきたが、今後、家庭学習の在り方について、協議していく必要がある。	3	3.5	○ 学校の授業がわかる・できると高い評価で参観時も積極的に挙手したりしているので、その姿勢が家庭学習でも生かされたら学習の広がりがあると思う。 ○ 学年が上がるにつれて「高原や狭野のことをよく知っている」の割合
	2 地域人材や文化財の活用	○ 地域人材や文化財の活用等を行い、ふるさとへの誇りや愛着を育む。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、ふるさと高原を「好き」と答える児童 80％を目指す。	○ 地域人材（棒踊り、神楽、さのっこ講話等）、文化財（狭野神社等）の活用、生活科や総合的な学習の時間等におけるふるさと学習、あるいは地域行事（神楽・敬老会・秋祭り・御田植え祭・べっぴん会等）への参加を促した、「ふるさと高原が好き」な児童の割合は 96.4％であった。	4		

	3 ふるさと教育の 充実	○ 高原町「ふるさと教育の手引き」「ふるさと学習テキスト」等を活用し、ふるさと教育の充実を図る。	○ 学校評価アンケートの児童調査結果において、高原のことをよく知っている」と答える児童80%以上を目指す。	○ 総合的な学習の時間に、ふるさと学習テキストを活用し、高原町について学習するとともに、子ども未来会議において高原町についての要望や提言を行った。「高原や狭野のことをよく知っている」児童の割合は、3・4年生66.9%、5・6年生89%であった。	3		が増えており、ふるさとのに対する興味・関心が増すことは喜ばしい。 ○ 家庭学習の見届けの取組」は両親が仕事で忙しい中でも見届け割合向上に期待します。 ○ 「ふるさと教育」について家庭・学校でふるさとをPRして知ってこそ「ふるさと高原が好き」につながるので教育の充実を望みます。
--	-----------------	--	---	--	---	--	--